



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和5年11月30日

12月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

「ふつう」ってなんだろう

校長 角井 治朗

各地から雪の便りが届き、校庭を吹き抜ける冷たい北風に、本格的な冬の到来を感じる頃となりました。そのような中でも、晴れた日の休み時間には、元気に外に飛び出して遊ぶ子どもたちの姿がたくさん見られます。また、28日（火）に行われた音楽朝会では、1年生が初めて全校児童の前でステージに立ち、歌を披露しました。たくさん練習してきた成果を十分に発揮し、心を合わせた元気な歌声が体育館に響き渡り、そのはつらつとした様子に聞いている方も胸がぼかぼかと温まる感じがしました。早朝より多くの保護者の方々にもお越しいただき、ありがとうございました。改めて感謝申し上げます。

さて、来月、12月4日（月）から8日（金）までを、本校では人権週間としています。市立学校では、人権教育の基本理念として「だれもが、安心して、豊かに」を掲げ、その理念をすべての教育活動の基盤と位置付けて取り組んでいます。一方で、この「人権」という言葉や意味を子どもたちに伝えるのはなかなか難しいものでもあります。そんな時、ふと心に浮かんだのは『きみの「フツウ」はだれかの「トクベツ」』という言葉です。これは深谷中学校の今年度の人権標語として、毎月お届けいただいている学校だよりに掲げられているものですが、人権について考える上でとても大切な意味を含んでいると感じます。「ふつう」ではない、つまり「多くの人と同じ」ではないというとらえ方が、時に差別や偏見、いじめの原因になりうることを考えると、お互いの「違い」を認めることが人権を大切にすることでとても重要だと考えたからです。今、自分が「ふつう」と思っていることが本当にふつうなのか、誰にとってもふつうなのか、いつでもふつうなのか…、そう自分自身に問いかける気持ちをもつことが大切であること、そして、例えば友達に自分との違いを見つけたら、それは自分の「ふつう」を見直し、広げるチャンスだと思えるようになってほしいということを子どもたちに伝えたいと考えています。

12月4日（月）の朝会では、「人権」に関連して、この「ふつう」をテーマに子どもたちにお話をしようと思っています。学校での人権週間を機に、ぜひ、ご家庭でも「ふつう」ってなんだろう…、そんなことについて話題にさせていただけるとありがたいです。